

# Dr. 板東のメディカルリサーチ No. 175

## 〈崇高な 精神性の ヘップバーン〉

私が子供の頃、友人の大鳥（おどり）君は常に「ヘップバーン」と呼ばれていた。後になってあの女優であるAudrey Hepburnのためと知ること。私は映画「My Fair Lady」に登場する彼女に陶醉。主題歌も大好きで、よくピアノで演奏していたことを思い出す。

後々、健康講座などのプレゼンの際に、彼女のクラシックバレエ技術、映画俳優時代、ユネスコにおける国際貢献を含む素晴らしい活動や功績を紹介させて頂いた。最後に出演された映画、スティーン・スピルバーグ監督による「Always」。彼女は天使役で登場し、文字通り「いつまでも—あなたの心に」残る愛の名作だった。私達が偉大な存在に支えられている物語に感動したものだ。



### ◆宣教医 ヘボン氏英語と 医を教へ

さて、医学や医療、英語関係の領域で、歴史に残る素晴らしい医師が、かつていたことをご存じだろうか。私たちが常々、ローマ字で使っているヘボン式を提唱したアメリカのヘボン医師である。米国ですでに著名な博士が安定した職業や生活を捨て、言葉の通じない日本へやってきた。氏は横浜で多数の患者を無償で治療しながら、日本語を習得。書簡集には「やろうと思えば大きな医療事業をすることができるが……、私は一切治療代を断り、できる限りのものを全部、日本人に捧げるつもりです(1860. 5. 14)」と記録にある。



なぜ、ヘボン氏はわざわざ来邦したのであろうか。その最終目的は、聖書を日本語に翻訳し、東洋における伝道であった。そのために、ヘボン式ローマ字を発明したことで、日本最初の和英辞典「和英語林集成」を編纂され、第5刷まで発行された。なお丸善の呼称はMaruyaである。

氏の本名はJames Curtis Hepburnだが、辞書の表紙には平文（ヘボン）先生とある。当時、日本人が言いやすいようにとの配慮もあり、ヘップバーンではなくヘボンと表記して、定着したものであった。



### ◆その国で 文化度示す 辞書の数

氏は幕府からの依頼で、各藩から選抜されたエリートに西洋医学と英語を教え、ここで学んだ高橋是清は後に総理大臣を務めた。

かつて教師だった妻のクララも英語塾を開き、男女共学のヘボン塾から、フェリス女学院および明治学院へ私財を投じて発展させたのである。異国人でありながら、日本の医学や文化度を引き上げてくれたのは、見返りを求めないヘボン博士など献身的な宣教師たちであった。1905年（明治38年）には、勲三等旭日章が贈られている。

現代の日本では、教育や医学、文化などの領域で、あらゆる辞書が揃えられており、これが当たり前と思っている人がいるかもしれない。しかし、実際このような国は稀有であり、有難いことと云えよう。多言語を自由に操る本邦における文化の基盤を支えてきたもので、多大な貢献をされた先人に感謝申し上げたい。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）



横浜市立大学医学部ヘボンホール